

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900559		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 玉里の里	ユニット名	たんぼぼ
所在地	〒311-3433 茨城県小美玉市高崎1824-500		
自己評価作成日	平成22年12月28日	評価結果 市町村受理日	平成23年6月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年2月10日	評価確定日	平成23年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者一人ひとり思いや意向の把握に努め家庭的な雰囲気の中で、1. 人権の尊重 2. 個別のケア 3. 地域の一員として暮らすこととの基本理念のもと個々人の日常生活が営まれるよう支援に取り組んでおります。</p> <p>又、関連施設に医療法人があり協力病院として優先的に医療相談が受けられる体制となっております。</p> <p>当事業所隣接地には肥育牛の牧場が存在し、かつ紫峰「筑波山」も眺められる緑豊かな環境下にあり地域に選ばれるグループホームを目指して気軽に立ち寄れる施設にして行きたいと考えております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>朝礼では、全職員で理念を唱和するほか、人としてのマナー、介護者としてあるべき姿などを確認して日々の支援にあたっている。</p> <p>管理者や職員は、利用者の希望を最優先とした支援に努め、利用者一人ひとりの個別性を尊重したサービス提供に努めている。</p> <p>看取りケアに関しては、事業所でできること、できないことを明確にし、利用者や家族等の希望にそった最期が迎えられるよう支援をしている。</p> <p>事業所は3ユニットあり、各ユニットの仕様は共通しているが、それぞれ利用者や職員の個性が感じられる家庭的なたたずまいとなっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方と共に、その人らしく暮せるよう独自の理念があり、朝礼に言い共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関や各ユニットのホールに掲示するとともに朝礼で唱和し、職員同士で確認し合いながら実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	参加できるような行事等には、積極的に参加している。	踊りや傾聴、マッサージなどのボランティアのほか、市社会福祉協議会が主催する在宅介護者向けの見学会を受け入れ、地域の人々と交流を図っている。 事業所自体が地域の一員として日常的に地域と交流するまでには至っていない。	自治会に加入し地域の人々と積極的に交流を図るほか、地域に向けて介護教室やAEDの講習会を開催するなど地域貢献に努めることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に力になれることや、相談できる体制があることを周知している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告などを行い、意見を頂き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告などを行うとともに出席者間で意見交換をし、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時は連絡を取り、相談・情報交換を行っている。	管理者は市担当者を頻繁に訪問し事業所の空き情報を提供したり、介護保険や生活保護受給者の連絡や手続き、相談などを行い協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。職員全員マニュアルを熟読している。	身体拘束を行わないことを契約書に明記するとともに、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 開設時から現在に至るまで身体拘束の実績はない。 利用者の外出を察知した場合は職員が同行するなど、利用者の意思を尊重し支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の指導により虐待をしないという理念は全職員の中に浸透している。利用者本位の考え方に基づいて支援を行っており支援の方法等は、ユニットごとに日常的に話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係資料を使い、学ぶ機会を持っている。さらに、勉強する機会を設け、資料の整備を行う。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読み合わせを行い、同意して頂き、サインを頂いている。又、報酬や契約に改定、改正が行われた際には、家族に説明し同意を頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等の意見は、面会時や、病院受診の連絡時など常時聞けるようにしており、サービス向上に努めている。	利用者からは日常のふれ合いの中から、家族等からは来訪時に意見や要望を聴くよう努めるほか、玄関に苦情箱を設置したり、無記名のアンケートを実施している。 出た意見等は職員会議等で話し合い、運営に反映させている。 苦情相談受付窓口を玄関に掲示するとともに、重要事項説明書に明記している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しい入居者の方が入居する前に、状況、情報をスタッフに伝え、また、毎月ユニットごとの会議を開き、意見交換をしている。	管理者は職員が意見や提案を出し易い関係を築いているほか、施設長が職員一人ひとりと面接し話を聞く機会を設けている。 職員から出た意見等は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の環境に合わせ、勤務体制を組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて、支援を行っている。必要に応じて、外部研修を受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	情報交換等を行い、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、必ず面談を行い、本人との信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安を受け止め、ホーム側の意向を説明し、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとの情報交換や、病院との連携をとり、支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の好み能力に応じた活動をその時の気分を考慮しながら一緒に行っている。また、入居者の方から学ぶこともあり、職員も良い刺激になっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事によっては、ご家族もお誘いし、本人と家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたり、地域の行事へ参加したり、近くをドライブしたりとしている。	職員は利用者が近隣の美容室や理髪店を利用したり、家族や友人と手紙や電話のやり取りができるよう支援するほか、空き家になっている利用者の自宅へ同行するなど、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を、スタッフは把握しており、入居者様が孤立しないよう場面の設定を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サマリーを入院先にお渡しし、情報の共有を図っている。亡くなった方の告別式参列等、つながりを大切にしているが、なかなか継続される家族はいない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時などに本人ご家族の希望や意向を聞き、希望に添えるようケアを行っている。	職員は利用者との会話や表情、しぐさなどから、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 職員は利用者の思いや意向を尊重し、カラオケやトランプ、短歌、俳句、手芸など、利用者がやりたい時にやりたい事ができるよう支援しているほか、掃除や洗濯物たたみ、お茶入れ、犬の世話など、利用者が自主的に役割を持ち、生きがいをもって暮らせるよう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や、お気に入りのぬいぐるみ等を持参して頂き、生活環境の設定に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントシートに記録し、心身状況を把握し、体調の変化等を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各入居者について会議を行い、本人や家族の希望に沿って、介護計画を作成している。又、ケアプランの見直しを行っている。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れて定期的には6ヶ月毎に見直すほか、新たな課題や心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直し、家族等の同意を得ている。 1ヶ月に1回開催されるユニット会議で利用者全員のモニタリングをして現状の確認をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄等を記録し、スタッフ間で情報を共有し、ケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況にあった、外出に対応している。又、家族の状況に応じて通院介助も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や訪問歯科サービスを活用している。運営推進会議に地域の方々に参加して頂き、情報交換をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様からのかかりつけ医の希望を大切にし、事業所の協力医との連携を取りながら支援している。	利用者や家族等の希望にそってかかりつけ医や協力医療機関への通院を支援するほか、訪問歯科診療を受けられる体制になっている。 受診結果はその都度家族等へ報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が同じ系列の特養の看護師や医療機関と連携を取り対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者様の状況に応じて、家族や医師と話し合う機会を持ち、早期退院を心掛けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、事業所でできることを説明して、必要に応じて新たな支援の検討し、安心、納得し医師とも相談、話し合う。</p>	<p>事業所では利用者や家族等の希望にそって終末期や看取りケアを行う方針である。</p> <p>看取りに関する指針や看取り介護についての同意書を作成し、家族等の同意を得ている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全職員が上級救命講習を習得している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>2ヶ月に1回の避難訓練、また、年2回消防署立ち会いのもと総合避難訓練を行い、地域の方に声をかけ、参加して頂いている。</p>	<p>年2回、消防署立会いのもと昼間や夜間を想定した総合訓練を実施するとともに、2ヶ月に1回事業所独自の避難訓練を実施し、反省点などを記録して次回の訓練に活かしている。</p> <p>災害時に備え、食糧や飲料水などを備蓄している。</p> <p>避難訓練に地域の人々の参加を毎回得られるまでには至っていない。</p>	<p>地域と密に交流を図り相互に協力し合う関係づくりに努め、避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう取り組むことを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声かけや対応の中で、誇りやプライバシーを損ねることがないように留意し、尊厳を大切にしている。	管理者や職員は利用者に対する呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援をしている。 個人用ファイルは鍵のかかるロッカーに保管し情報漏洩に留意するとともに、個人情報を使用する場合は家族等に利用目的を提示したうえで同意を得るなど、適切な取り扱いを心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情やしぐさから読み取ったり、常に本人に確認を取りながら支援している。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はほぼ決まっているが、本人の状態や希望があればそれに合わせて対応している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にて希望を聞きながら対応している。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況や栄養バランスに配慮した食事の提供を行っている。	利用者は職員と共に、食事の準備や配膳、下膳などができる範囲でしている。 行事にちなんだメニューや外食を取り入れたり、自家菜園で採れた食材を利用して調理するなど、利用者が楽しく食事ができるよう支援をしている。 職員は利用者と同じテーブルを囲み、同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況を把握し、1日に必要な水分・食事をバランスよく提供できるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアはできているが、毎食後の口腔ケアは出来ていないこともあるので、今後の課題である。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握することに努めている。顔色・表情・しぐさを観察し声かけ誘導を行っている。	職員は利用者の生活リズムや排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間も声かけしてトイレ誘導し、なるべくおむつを使用しないで済むように支援をしている。 ポータブルトイレの利用については利用者の希望を優先して使用の可否を決めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を管理栄養士の献立により取り入れられており、出来る限り体を動かし、便秘の改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に合わせて入浴時間や足浴、シャワー浴などを行っている。	利用者の希望にそっていつでも入浴ができるよう支援をしている。 脱衣場は他の場所との温度差が無いよう、冬場は一日中暖房をかけているほか、腰高の畳敷きのスペースがあるため、利用者が腰をかけたたり横になったりすることができ、快適に着替えができるよう工夫をしている。 現在のところ、入浴を拒む利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりそれぞれの生活習慣に合わせて心掛け、室温や光、音などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、全職員が把握できるようにしている。変更があれば、アセスメントに記録している。服薬は、きちんと服薬できているか確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どのような場面において利用者一人ひとりがその力を発揮できるか考えながらかわりを持つように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の買い物や散歩などの希望には随時応え、家族からの希望があった際には、その都度支援を行っている。	職員は利用者が事業所周辺を自由に散歩したり、日用品の買い物など、気軽に戸外に出られるよう支援をしている。 法人のワゴン車やリフト車を利用して、公園での花見やラドン温泉、陶芸、イルミネーション見物など利用者の希望にそった外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が方については希望に応じて買い物が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった際には、どこに電話したいのか訴えを聞き、その都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事に合わせた飾りつけをしている。	リビングには行事にちなんだ装飾品や利用者の制作した塗り絵や短冊、季節の花などが飾られ、家庭的な雰囲気となっている。 リビングの片隅にソファが置かれ利用者の居場所づくりに役立っているほか、テーブルには立ち座り時に便利な手すりが施され、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 事業所の畑ではキュウリやナス、ピーマン、シシトウ、トウモロコシなどを栽培し、利用者と職員が協同して作業を行い、五感を刺激したり季節の移り変わりを感じられる場所となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置きゆっくりくつろげるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた馴染みのものを持参していただいている。また、本人の好みに応じて、日用品の買い物に出かけている。	居室にはテレビやこたつ、テーブル、ソファ、仏壇など馴染みの物品が持ち込まれているほか、家族等の写真や手作りの作品が飾られ、利用者が居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせて、傾き、転落の恐れがある方には、リクライニングの車椅子を使用し、体の痛みがある方は、クッションを使用している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 玉里の里

作成日 平成23年6月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	(事業所と地域のつきあい) 事業所自体が地域の一員として日常的に地域と交流するまでには至っていない。	自治会に加入し地域の人々と積極的に交流を図るほか、事業所で介護教室やAEDの講習会を開催するなど地域貢献に努めることを期待する。	上高崎地区の自治会に加入し地域住民との交流を図りながら地域貢献の題材内容等検討努力する。	3ヶ月
2	35	(災害対策) 避難訓練に地域の人々の参加を毎回得られるまでには至っていない。	地域と蜜に交流を図り相互に協力し合う関係作りに努め、避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう取り組むことを期待する。	上記地区自治会に加入した後、近隣の皆様に当施設の行事等に参加いただき相互理解が図れるよう努力する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。